

## 第2回 草津市教育情報化推進懇談会 議事録

### ■日時

令和3年12月27日(月) 10時30分～12時00分

### ■場所

草津市役所6階 教育委員会室

### ■出席委員

松尾委員、加納委員、木村委員、角委員、太田委員、柳澤委員、奥村委員

### ■欠席委員

(オブザーバー) 草津市ICT戦略特別推進員 吉田氏

### ■事務局

教育部 作田理事、菊池副部長(学校教育担当)兼学校教育課長

児童生徒支援課 柴原課長

学校政策推進課 上原課長、糠塚ICT教育スーパーバイザー、尾関課長補佐、西村専門員、山下主査

### ■議事録

10:30

事務局

皆様、本日は公私とも御多用のところ、また年の瀬という大変お忙しい時期に御出席をいただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから第2回草津市教育情報化推進懇談会を始めさせていただきます。

まず初めに、前回の懇談会から委員の交代がございましたので御紹介させていただきます。

第1号委員「情報教育に精通する者」として、ベネッセコーポレーション法花委員に代わりまして、今回の会議から同じくベネッセコーポレーション松尾委員に出席いただいております。

松尾委員、一言御挨拶いただけますでしょうか

<松尾委員 自己紹介>

ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

では、ここから加納座長に議事進行をお渡しいたします。座長、よろしく願いいたします。

座長

では改めてよろしく願いします。前回と同様、あまり緊張せず、ざっ

くばらんに話をしていければと思います。

それでは、次第に従って、第2期計画案について事務局から説明いただいた後、意見交換をしていきたいと思います。極力皆さんとの意見交換に時間を割けるよう、事前に資料が配布されており各自予め熟読していることと思いますので、事務局はそれを踏まえたうえで簡潔な説明をお願いします。

事務局

<資料1・資料2により「基本目標1」について事務局説明>

座長

まず、基本目標1に関して、どなたか御意見や御感想等ございますでしょうか。

委員

基本目標1で掲げられている「効果的な指導の充実」の中で「草津型アクティブ・ラーニングの推進」というのが、重点事業として挙げられています。これは非常にいいと思います。

といいますのも、2022年度から、高校の学習指導要領の中に「総合的な探求の時間」、いわゆる「探求型学習」と呼ばれる、アクティブ・ラーニングよりさらに一歩進んだ学習の形態が教育の中に明確に位置付けられていくこととなります。

探求型学習というのは、学習者がそれぞれの課題意識を持って、物事に関心を寄せ、それに対してリサーチを行い、それをまとめて他の人にわかりやすい形で示していくというスパイラル型の学習のプロセスを言うわけですが、この「草津型アクティブ・ラーニング」が小中学校の学びを通じて、高校以降の探求型学習に繋がっていくようなものになればいいと思います。

そしてタイミング的にも合理性があるのではないかと思います。

大学では、この探究型学習の突入を見据えた教育の整備をしなければいけないという危機感が非常に強くあります。

特にこのコロナ禍でオンライン授業が非常に広まりましたが、今新たに浮上してきている問題として、いわゆる何百人が一斉に受けるような講義型の授業はもうオンラインで良いのではないか、なんならリアルタイムじゃなくてもVOD、ビデオオンデマンド、つまり動画を見たらもうそれで良いのではないかとわれつつあります。大学の根本的な授業のあり方にも関わってくるところで、パンドラの箱が開いてしまったという感じではありますが、もうこれは不可逆だと思います。

なので、知識伝授型のコンテンツはどんどんVOD化していったら、学校や教室といった児童先生が集まる場が、より柔軟で対応な学びのニーズ

に応えていく場として再設定されていくのではないかというのが私の考えるところで、この「草津型アクティブ・ラーニングの推進」にかかる大きな期待でもあります。私からはひとまず以上です。

座長

ありがとうございました。

小中高大接続を見据えて探求型、アクティブ・ラーニングを推進していくことが非常に良い取組じゃないかという御意見ですね。

他にどなたか御意見や御感想等ありますでしょうか。

草津市は、このコロナの第5波の時に遠隔授業をされていて非常に先進的な取組だったかと思います。そういった実例の観点からもどうでしょうか。

委員

I C T機器自体のことではないのですが、子どもが授業を受ける際、タブレットと並行して、ノートや教科書や筆箱も使っています。そうすると、この計画の位置付けではないかもしれないですが、机が狭いので勉強がしづらいです。なので、例えばフリーアドレスの大きな机で班をつくって探求型の授業をするとか、そういった教室の整備や備品も合わせて考えていただけると良いと思いました。

委員

私も子どもが小学校6年生なので、9月にオンライン授業を受け、先生方が工夫して授業を展開してくださっているということを非常に感じました。

小学校では学年の全クラスが同じオンライン授業を受けており、画面の前で授業をする先生、操作をする先生、画面を切り換えながら子どもたちの様子を見ている先生と、学年団で工夫して1時間の授業を展開しているというように感じました。中学校だと教科で先生が違うので、どのように展開されているのか興味を持ちました。

また、うちの子は4学級130名程度の学年ですが、途中で通信障害があったのか固まっていたり、図書館について調べるとなったときに図書館のサーバーの問題なのか、アクセスが集中してページが開けられない子がいたりして、一斉にやりたくてもそれができないということがありました。また、カメラをオフにしている子がいるので先生がカメラのオンを呼びかけるのですが、子どもからしたらオンにしているつもりのように、子どもたちも操作に戸惑っているような場面もありました。初めは子どもたちも緊張しながら、オンライン授業を受けていましたが、それが1月近く続いたので、後半には画面上でも、ふざけている子がいたり、また、先生の目が行き届きにくいので遊んでいたりするなどがお母さん方の話

し合いの中で言われていました。親が見ていられる家庭とそうでない家庭があるので、配信する側は一斉に同じ教育を提供しているとしても、受け止め側には差があるのではないかというのは今回感じました。何時間かの中でもいいから、みんなに発言させる場面があったほうが、緊張感があっていいと思います。親としても子どもに「授業だ」ということを徹底して意識させる必要が後半出てきたと感じました。

以上です。

座長

現場からの意見というと学校のことを指しがちですけれども、特にオンラインの場合は、家庭というのが非常に大きなウエートを占めるのではないかなと感じる発言だったと思います。

委員から、「これが基本目標1に関係するのか」という話がありましたが、第2期計画案の本編7ページで、デジタル教材とアナログ教材を両方使いこなしていくのが、New草津型アクティブ・ラーニングだというようなポンチ絵が書かれています。お二人の委員から発言があったものは、このさらに土台としてインフラが必要というお話で、デジタルインフラとして、サーバーは落ちないようにして欲しい、アナログインフラとして机はデジタル教材を置けるようにして欲しいという非常にベーシックなものなのですが、実はそこの整備をするだけでも「草津型」になり得るのではないかということは、強く感じました。

机に関して言えば確かに従来の机では狭くて、探究学習をやっている学校では六角形を半分に割ったような机が流行り始めています。四角い机を四つつなげて、大きな四角い机を作るよりも、六角形にすると6人が座れて協働学習がしやすい。机レベルでもアクティブ・ラーニング向きの机というものを考え始めている自治体や大学が出てきています。デジタルインフラとアナログインフラという土台の上にデジタル教材があって、その上に1人1台端末の活用と協働的な学びと個別最適な学びがあるのかなと、聞いていて感じます。

中学校はどうなっているのかというお話もあったので、委員いかがでしょうか。

委員

中学校の状況です。まず、アナログインフラの部分では確かに教科書や副教材を広げて、かつ、タブレット端末を机の上に置いて子どもたちは授業を受けておまして、私も何回か授業を見ながら、よく落とさずに上手にやっているなど感じています。中には、もう落ちるのではというぐらい机からはみ出した状態で使っている子どももいますから、その部分については学校現場としては注意喚起していくしかないと思っています。机

のサイズは、なかなかすぐには変えられないと思うので声掛けをしながらやっています。

オンライン授業の中身については、本校では、同じ教科の教師がチームを組んで、先ほどおっしゃったような、カメラの動きや出欠の状況など役割分担をして進めています。今回、草津市全体でオンライン授業をすることが決まったことによって、教員のオンラインに関するスキルは随分上がったという感じはありますので、やはりそういう機会はあった方が教員の授業力・指導力向上には役立ったと思っています。

座長

ありがとうございます。

いかにも落としそうな場面も見られるけれども、児童生徒も非常に工夫されているということですね。活用が進んでいる証拠かと思います。計画の本編19ページに「1人1台端末については機器の適切な取り扱いを周知徹底することで人的な故障できるだけ少なくします。」という目標も掲げられています。児童生徒ももちろん人的な故障ができるだけ少なくなるように振る舞っているようなので、よりそのような振る舞いがしやすくなるようなアナログインフラの整備も求められるのではと思います。

チームティーチングがかえってやりやすくなっているというのは面白い話ですね。普通の授業であれば、同じ教科の先生は、同じ時間バラバラのクラスを受け持っているけれども、オンラインの場合は、一堂に会することができて、一気に配信することができる。先ほど委員から話があった「対大勢の授業は、もう配信でいい」という発想に近いのかもしれないですが、先生が一致団結することによってより良い授業動画をつくることのできる可能性もあるのだなと思いました。あと、教員養成の立場からすると、そうやって一堂に会すと、シニアの先生と若手の先生がお互いに学び合う、先生同士が学び合う場になるのでは感じました。

一方で、双方向的な取組、児童側からの発言を拾うというような取組が少ないのではないかという意見が委員からも出ていましたが、この辺り小学校はどのようにされていますか。

委員

こちらが発信したことをどう家庭における受け手が学んでくれるかという点ですが、確かに学年単位で扱う集団が100人前後となる中で、やはり御指摘の部分が課題となりました。こちらが発信したことを向こうはどこまでわかっているのか、その反応が見えにくいということで悩みましたが、オンライン授業を続ける中で、指導者側もスキルアップし、双方向で、手を挙げてもらうとか合図を出すとか、少しでも集中させてこちら

の授業に引き込ませるための工夫をしています。ただ言ってくださったように、家庭の協力はバックボーンとして一番大事だと感じました。逆に、よくこれだけオンラインでおうちの方が協力していただいたと感謝しています。

座長

学校の現場もいろいろな工夫をされている途中であるようですので、このような計画がより良くなっていくための礎となればと感じました。

I C Tのシステムの立場から委員の方から、より良いシステムの提案であったりより良いシステムの使い方の提案であったりがあればありがたいですがいかがですか。

委員

感想になりますが、草津型アクティブ・ラーニングという独自のものを作っていくというのは非常に素晴らしいと思います。

少し気になったのが、情報モラルはどこ自治体でも問題になっていて、いじめに繋がったり、子どもが勝手にアカウントを使って何かメッセージを送り合ったり、そのあたりの認識を子どもたちや先生、保護者に理解していただく必要もあると思うので、どう伝えていくのかという検討は必要だと思いました。

あと、協働学習ソフトやデジタルドリルについて、資料に活用の回数が載っているのですが、この回数の内訳を詳しく見ていくことも必要なのではないかと思いました。様々なソフトを導入されていると思うので、このソフトをどういった目的で使用しているのか、その目的を精査した上で我々も開発研究していきたいと思いました。

座長

I C T活用の目的意識をしっかり持ち、そこから逆算してどんなシステムが必要なかを整理するようにしたほうが良いという御提案と、情報モラル教育のより一層の推進が求められるんじゃないかという御発言でした。

その情報モラル教育は基本目標2にあります。ちょうど時間的な頃合でもありますので、基本目標2のディスカッションに移らせていただければと思います。

委員

最後に1点よろしいですか。

先ほど座長から、学校、教育関係者は現場というと学校・教室だけに視野狭窄になりがちだというお話があったと思います。また委員から各家庭によって通信環境の違いなどがあって、教育の平準化というものの懸念が表明されたかと思います。

それに関して8月26日付けの京都新聞の、「授業は午前中のみ、下校後オンラインで実施 滋賀草津市立の小中」というこの記事を読んで私が感じたこととお二人のおっしゃったことが結びつくのかと思いました。New草津型アクティブ・ラーニングということを考えてときに、学びの場というのは、図書館や、はたまた駅前にあるコワーキングスペースなど、いろんな場を児童生徒に貸し出すという方法もあり得るのではないかと、各家庭によってICTの配備状況に差があるのであればそうしたところもそこで吸収できるのではないかと、と思っています。学校がいつまでも教育現場の最前線であり続けるという時代はもしかしたら10年ぐらい先にはなくなっている可能性もあるのではないかと私は思いました。最後に可能性の話ですが終わります。

座長

ありがとうございます。  
他の委員の皆様つけ足しや言い残したことがありますか。  
ないようですので、基本目標2について事務局から説明を願います。

事務局

<「基本目標2」について事務局説明>

座長

ありがとうございました。  
この基本目標は項目が少ないですが、先ほど委員から、重要ではないかという発言もありましたので、少し時間を取って意見交換していきたいと思えます。  
情報モラルに関して、何か御意見・御感想や、あとは家庭や学校といった現場でのヒヤリハットみたいなものがあるようでしたら、御発言いただけたらと思えます。  
委員から何か一般的な注意喚起だとか、事例があれば御紹介いただけますか。

委員

弊社がサービスを提供させていただいている中では、授業支援システムで子どもが自分とは違う子のアカウントでログインをして、違う子に悪口を送るといったものがありまして、もちろんモラルの部分でどう子どもたち保護者に伝えていくかもそうですが、弊社としては物理的にそういったなりすましができないようにする機能など、ID、パスワードの管理をシステム的に見直していく必要があると考えています。  
低学年の子どもだと特にパスワードの管理などは非常に難しいと思えますが、そのあたりを学校として考えていく必要があると思えます。

座長

ありがとうございます。

IDやパスワードなど個人情報はどう管理していくのかという話ですね。学校、家庭でこのように管理しているとかこのように管理して欲しいとかというような、御意見・御感想はありますか。

委員

学校ではID・パスワードを一番初めに子どもたちに渡したとき、教育委員会からも指導がありました。これがいかに大事かというのを、子どもたちの指導とともに、保護者に向けて学校通信や学年通信で定期的に啓発しているところです。

座長

ありがとうございます。現場でも、非常に重要な課題の一つで、より周知徹底が図られているというお話ですね。

他に御意見、御感想ありますか。

委員

「人を傷つけるような使い方は駄目だよ」といった情報モラルに関しては道徳レベル・常識レベルで言うべきだとももちろん思います。そこに反対意見はないですが、もう少し具体的にやったほうがいいと思います。特に先ほど個人情報・アカウントの管理の話が出ましたが、それは単に「他の人に使われちゃうよ」とかだけではなく、アカウントの漏えい・流失は信用情報を毀損する可能性があるってことを具体的に教えた方が良いでしょう。クレジットカードのクレジットが信用という意味であることを考えればわかると思うのですが、カードの番号・名前・認証キーを人に教えたら使われてしまいます。その結果発生した損害については自分の金融信用情報を毀損することに繋がるわけです。その意識付けをもうちょっと早いうちからしてほしいです。

特にアカウントの管理については冗談抜きに義務教育で教えて欲しいと私は思っています。アカウント管理アプリをお使いの方ってどれくらいおられますか。私はここに450個のサービスのアカウントを登録していて、パスワードはすべて乱数で自動生成させているので、自分では何一つ覚えていません。「パスワードを覚えてはいけない」ということを徹底して欲しいです。パスワードを使い回すとかありえないこと。こういうアプリを開くための1回目のパスワードしか覚えちゃ駄目です。

他にも二段階認証不要やワンタイムパスワードの使用等に関して、大学生たちの運用スキルが余りに低いということに私は非常に危機感を持っていますので、単に「人を傷つけちゃ駄目」とかそういう子どもを怯えさせるような語り口だけではなくもっとシリアスな話として、アカウントを勝手に使ったり、人に漏えいするという事は非常に重大な、極端に

言えば犯罪になりうることだというぐらいの徹底指導をしたほうがいいと私は考えております。

座長

ありがとうございます。

徹底指導にプラスしてシステム面での導入というような形で非常に現実的なやり方を学校でも推進できる余地があるのではないかというお話だったと思います。

委員

情報モラルに関して、学校によって差はあるかもしれませんが、子どもたちの年齢に応じて、こういうことをしたらこのような犯罪に巻き込まれる、もしくは、加害の立場になるという授業はしています。この前もいじめに繋がるような書き込みがあり、そういう授業を具体的にしました。教材をつくるにあたってネットを見ると、一本当たり5分ぐらいの動画で警察が作成しているものなど、非常に使えるコンテンツがたくさんありました。保護者も5分ぐらいの動画でしたら時間的に見られるかと思えますので、学校としてもそういったことを発信していく必要があると感じました。

委員

先日、12月16日付で市教委学校政策推進課からの「学習者用コンピューターの取り扱いについて（お願い）」という文書を、子どもが学校からもらって帰ってきました。そこには、具体的に破損が起こった状況を踏まえた取扱いの注意事項だとか、情報モラルに関して、アカウントの取扱いに関してなど機器の適切な使い方が具体的に書かれていまして、ここまで具体的なことを保護者向けに書いていただいたのはこれが初めてでした。

実際にオンライン授業をしている中で、気になったのが、子どもたちをグループに分けてグループ討議をした後まとめたこと発表するという授業があったときに、誰もしゃべらなかつたんです。それが果たして人間関係に問題があって発言ができないのか、慣れてないだけなのか、自動で振り分けられたグループなので、どうなんだろうって思いました。最近は授業参観もないのでその辺がわからなくてドキッとしました。

ただ、なかなか学校に足を運べないお子さんが、オンライン授業では積極的に参加されているのも見まして、そういう面では、みんなが参加できる場でもあったんだと感じました。

ただ、本当に今回いただいたこの教育委員会からのプリントは、すごく具体的で、こういうことを注意したらいいのかというのがわかりやすく、ありがたかったです。

座長 草津市は先進的な取組をたくさんされているだけあって、課題がちゃんと出てきて、それにきちんと対応している。そういうふうなサイクルをまわしていくことがより良くしていく、駆動力になっているのかなと聞いていて思いました。

次の基本目標と3と4は教員のICTの話だったり、校務のデジタル化であったりで、両方とも学校をより良くしようという目標が続いているようですので、まとめて説明いただいてまとめて議論するという形でもよろしいでしょうか。

では、よろしく申し上げます。

事務局 <「基本目標3・4」について事務局説明>

座長 それではこの目標3・4に関して御意見や御感想、御要望等ありましたら御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 基本目標の3の教育情報化リーダーの育成に力を入れるというところが素晴らしいと思っております。全国的にもソフトの活用が高かったり機器を有効活用できているところは、各学校や各自治体における火付け役というか、リーダーの先生がおられます。そういった先生に中心になって動いてもらうことは非常に重要だというふうに感じていますので、この活動は非常に素晴らしいものだと思います。

ただ、すべての学校に当てはまるわけではないと思いますが、現場の先生方からよく伺いするのが、こういう情報化リーダーとかは若手の先生がやっていて、なかなかベテランの先生との意見が合わないとか、若手の先生では活用が進んできたけれどもベテランの先生に浸透しなくて全体に広がらないという問題がよくあると聞いています。ですので、あくまで例ですが、ベテランの先生と若手の先生二人を情報化リーダーに任命することでうまくいっている自治体もあるので、そういったことを検討してみてもどうかと思います。

あと、情報化リーダーも、ただ推薦された人を任命するのではなくて、例えば、ソフトごとに見たときに活用率の高い学校のハブになっている先生は誰なのかなど、活用実態からあぶり出してリーダーに据えていくというのも良いのではないのでしょうか。

弊社のソフトでもそうですが、各社ソフトでコミュニティがあって、例えばその各自治体における推進リーダーとの情報交換の場を設けさせていただいているので、そういった他の自治体との情報交換の場にリーダ

一にも出ていただくとか、そういったことも今後つなげていければ非常に良いのではと思いました。

座長

ありがとうございます。

リーダーというものが非常に重要な位置付けになってくるのではないかというお話でした。実際に学校現場ではリーダーと呼ばれる方々は、どれぐらいいらっしゃるのでしょうか。リーダーを増やすとなったときにどれぐらい現実的なのか、そのリーダーが結局すごく忙しいという可能性もあると思いますので、リーダーを増やすという観点から見たときに現場の感覚を教えてくださいませんか。

委員

教育情報リーダーは、基本的に代表として学校に1名ですが、おっしゃったようにもっと広く広めていかなければならないということで、本校では、学年でリーダー的な役割を決めて皆に広める形で進めています。

もちろんリーダーの役割もわかりですが、そこにさらに、スーパーバイザーやスキルアップアドバイザーなどが市教委から来てくださって、具体的に学年ごとに教材を紹介くださったり授業を提案してくださったりして、これが本当に学校現場としてはありがたいです。今までも一斉の研究研修会はありましたが、個別に本当に細かな部分での具体例を教えてくださいただけなのが、教員間の格差を縮める大きい一歩となり、教員の意識も、こんな便利だと実感できたことが本当に大きかったです。

どんどん新しい情報が入ってくる中で、受け取る側にはまだまだ個人差がありますので、リーダーを中心にしながら動かしていくのが、まだまだ本校の課題であります。

座長

ありがとうございます。

校内の1番のリーダーと、その傘下にいる学年のリーダーという形でICT推進のためのリーダー組織がすでに動き始めているという力強いお話でした。

僕これまであまり自分の発言をしてこなかったのですが、少しさせていただきますと、僕もこのリーダーやICTスーパーバイザーという仕組みは非常にいい仕組みだと感じています。

それをより推進するために、そのリーダーに、学び直しができるような、インセンティブみたいなものがあるとより良いのではと感じました。

新卒の子たちはちゃんとICT機器とかソフトとかのことを教えて送り出していますが、今活躍している先生方は教員養成のときにそういう教育をしっかり受けてこなかった、おそらく自力で情報収集して自力で

いろんなアプリを活用して、自己研鑽に励まれているのだと思います。そういう学習の機会に、より手を挙げやすくなるインセンティブを与えるのはどうでしょうか。

ここでも「研修等に推薦する」ということを書かれていますが、それをより強力に進めて、学びたい、学ぶチャンスが欲しいと思っている方に、旅費をつけるとか、研修の参加費を出してあげるとかはどうでしょうか。また、今うちの大学に、現職で仕事をしながら、ICT教育の研究をしに来ている博士課程の学生がいます。もちろん時間外でやっているのですが、時間外の業務があつて博士課程の授業に来られないことが時たまあるので、そういうときに配慮があるとありがたいと思います。金銭的なサポートが欲しいというわけではなく、その人が今、学び直しをしていて、その知恵を学校に還元してくれる人なんだという形で、学校として精神的なサポートも含めたサポートをいただけるような体制があれば、よりインセンティブとして感じるのではないかと思います。自ら学び直すことをよりサポートする仕組みがあればありがたいなど、いち教員として感じました。

#### 委員

座長がおっしゃったように、こうした学び直しの機会に積極的に送り出してあげられるということは、教員自身の「自分が社会に必要とされている」という承認として非常に重要になってくると思います。

それに関連して、もうすでに現場の先生方は御存知だと思いますが、この5年ぐらいの間で、中学高校の優秀な先生たちは、戦争と言ってもいいぐらいの取り合い、優秀な先生の引き抜きが起こっております。残念ながら、首都圏の先進的な私立高校に引き抜かれるケースが非常に多い。ですが、やはり優秀な先生には草津で教鞭をふるっていただきたいと思っています。

優秀な先生に、「働きにくい」と思われたら終わりだと思います。先生にとっても、「ここで力を発揮し、力を尽くしてみよう」と思えるような環境が大事だと思います。そのためには人的なサポートが必要なわけですが、一方で、どれだけ手厚くしてくれと言っても、どうしても人件費のしぼりがありますので、限界はあろうかと思っています。

そこで提案ですが、ヘルプデスクのようなチャットボットの導入を検討されてはどうでしょうか。

本学も先生方からの問い合わせをチャットボットに切り換えたところ、その質問の多くが大体10個以内の質問に集中していたということがわかりました。なのでチャットボットにすることで、先生からの問い合わせのかなりの部分が収まるのではないかと思います。

委員

私も同じことを考えていたので、嬉しいです。

今草津市の市政では、LINEでチャットボットを導入されていますが、チャットボットは良いと思います。チャットボットにわからないことを入れたらすぐに答えが返ってくるのですごく便利です。

基本目標4の(1)「学校・保護者・地域との連携手段のデジタル化の推進」に、「ホームページ管理システムの導入を検討します」とありますが、保護者としてはホームページを見て、電話番号のところをタップすれば電話ができるだけでもすごく便利になります。草津市の学校のホームページを見ると、そういったものもまだないので、見る側が見やすい、たどり着きやすいホームページを作ってもらえると嬉しいです。

あと、中学校だと教科担任制なので、各先生が教室に出入りして同じ機器を使われると思うのですが、前の先生が無理やり機械を終わらせたために、次の先生が使おうとしたときに機械が動かないことがあると聞いたので、今更こんなこと聞けないというような機器の基礎的な扱いとかもチャットボットを使って聞けたり、動画で復習ができたりというような先生支援もあると良いと思いました。

座長

ありがとうございます。

人件費が限られている中で、工夫できることをという話で、具体的にチャットボットや動画で共有という提案をいただきました。

あと、電話はとった瞬間に業務が中断するっていう、学校教員にとっては、意外とすごく時間がとられるツールだと思うので、それをチャットボットに置き換えられるだけ置き換えると、教材研究など、教員の本来の業務に時間が使えることになると思います。教員の本来業務が何なのかっていうのは議論があるかもしれませんが、そういうところに時間がより使えるようになるっていうことは、教員の生きがいや、ひいては児童生徒のよりよい教育にも繋がるのではと個人的には感じました。

他いかがでしょうか。

委員

先ほどお話に出ていた、優秀な先生が外に出ていくところに対しての先生方の自己肯定感であったりとか、承認欲求みたいところは私も非常に大事だと思います。

インセンティブの件も整備いただきたいですが、すぐできる取り組みとして、他の自治体で上手くいっている事例としては、教育委員会で主催する研修に成功事例として呼んで、他の学校の先生方に対して発信をする。すると、選ばれた先生の承認要求が高まる部分にも繋がりますし、ソ

フトを提供している会社としては、そういった身近な先生がこういう使い方をしてくるという事実を伝える方が、非常に活用が進むというふうに思っていますので、そういったところを御検討いただくと良いのではないかと思います。

座長

ありがとうございます。

そういう自己肯定感がインセンティブにもなり得るというお話ですね。人件費を割くのは非常に厳しいという前提で議論が進められてきました。事務局からの「人件費を増やすのは難しい」という説明に合わせて議論してきたところもあろうかと思いますが、人的支援を増やして欲しいという思いは、前回の懇談会では出ていたので、人件費が厳しい中でやれることもやりつつ、そうは言ってもやっぱり人件費がないとできないこともあるので、継続的に要求していただきたいと思います。

最後10分で基本目標1から4のくくりを抜きにぎっくばらんな議論をしていければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

情報セキュリティに関して、アカウント・IDの管理についてのお話、本当にそうだと思いますが、一方で、子どもたちのやりとりを監視する流れにはなって欲しくないと思いました。例えばその子どもの発育発達の段階に合わせて適宜フィルタリングをかけるとか、使用時間を制限するとか、そういったサポートはあった方が良くと思います。子どもたちを監視するような運用はしないでいただきたいです。子どもたちの個人が守られた上で、きちんと自分を守る術、相手を尊重する術を、デバイスを使いながら覚えていってほしいと思います。

あと、感想になりますが、先ほどの学校の先生にインセンティブをという話が本当に感動しまして、学校の先生は、生徒に寄り添うことが美德じゃないですが、それが仕事だという立場でお仕事をされていると思うのですけれども、やっぱり1人の人間なので認められたいし、自分なりに成長していきたいという思いをもちろん持っているものだと思うので、一緒に成長していけるようなサポートをこの計画に盛り込んでいただけたらと思います。

座長

ありがとうございます。

五月雨式にどんどん行けたらと思っているのですが、その他ありますでしょうか。

僕から一つ、31ページの「自動採点ソフト等のAIを活用して負担の軽減を図ります」というところですが、若干違和感があります。というの

も、採点っていうのは児童生徒のつまずきであったり、書いている時の字の丁寧さなどから非常に有益な情報が手に入る瞬間でもあると思うんです。なので、採点を校務に入れるのかというのは結構議論がありそうだなと感じました。

とはいえ、採点に非常に時間が割かれているということもありますし、豊かな情報が詰まっているとも思えない記号問題みたいなものは自動採点にして、教員は自由記述の採点でより教育的な効果を発揮するっていうような形で役割分担するとかが必要かもしれません。

大きな話としては、何が校務で何が教育なのかをしっかりと考えた上で校務のデジタル化を進めてほしいです。デジタル化が可能なことでも、いわゆる教育的効果があることならば、そこは、あえてデジタル化を導入しないという強い意志を持つことも、一つの先進自治体の考え方ではと感じました。

そのほか何かありますでしょうか。

委員

今座長からありましたように、校務と教育の切り分けは、その教員の仕事に対するプライドの問題、尊厳の問題になってくるのではないかと、大げさかもしれませんが思います。

私は教育ICTの急先鋒みたいな人間ですが、コロナ禍の2年間の中で見えた一つの私の大きな見誤りは教員のメンタルヘルスの問題です。リモート授業になって学校に来れない学生がかわいそう。もちろんそれはそうなのですが、教員だってつらかったんだということですね。

学生や児童の前に立つその姿に憧れて教師になったということ方もきっと多いでしょうし、そこにこそ教育のやりがいを見いだしておられる先生方もおられると思いますので、業務・タスクの合理化・効率化を図られるときには、その一方で何か犠牲になっていないか、特に教員側のメンタルヘルスが何か削られるようなことになってないのかという配慮は必要だと私は思います。

それから、市民の理解という点も重要かと思います。先ほど委員から、子どもたちの管理をするディストピアみたいなことになって欲しくないという御意見、私も完全に同意であります。

そして子どもたちがICTを活用して学びに熱中して、草津のサポートがあってよかったと思ってもらえれば、今後の高校等での、端末の家庭負担に関する理解も得やすくなるのではと思います。12月18日の京都新聞に、県に対して公費の負担を訴えた保護者が書面を提出されたという記事を見ましたけれども、こうしたときに、むしろ子どもたちの方から「僕たちは今これで熱中して学んでるんだ。だからICTは必要なんだ」

ということを保護者の方に言ってもらえれば、学校や自治体が押し付ける形になるよりも、理解が得やすいのではないかと思います。

委員 最後の一つだけ。小学校の親御さんからオンライン授業の感想をもらっていたのですが、「オンライン授業で先生が黒板の方を向くと急に音声が入らなくなる」って言っていたので、インカムマイクみたいなのをぜひ買ってあげてください。

座長 そうですね。そういうのを学校に整備しておく、動き回る系の先生は便利だと思います。学校が何か導入するときは全校一斉にみたいな話が多いと思いますが、ICTの話は日進月歩なので、まず情報化リーダーが試しに買う、情報化リーダーは、1個何か試しに買う権限があるみたいな感じなのも多分インセンティブになるかと思います。それでこれが良いみたいな声が集まれば、自治体も予算化しやすいということもあるかと思いますので、そういうのも一つだと思いました。

すいません、司会の不手際であまり時間を豊かにとれなかったところもあったかと思いますが、時間になりましたのでここまでとさせていただきます。

事務局の皆様方におかれましては本日の意見を十分、参考にしていただいて、最終の計画案を御検討いただければありがたいと思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局 座長、ありがとうございました。委員の皆様にも活発な御意見をいただき誠にありがとうございました。本日いただいた意見を参考に、学校教育情報化推進計画 第2期計画の最終案の策定してまいります。

今後の予定ですが、最終の計画案をもって1月末頃に議会に中間報告にあがる予定をしております。

それでは以上を持ちまして第2回教育情報化推進懇談会を閉会とさせていただきます。皆様長時間にわたりありがとうございました。

12:00 終了